



外国書講読を通じて自ら考える : 公共交通を対象として

三古, 展弘

(Citation)

経済学・経営学学習のために, 2015(後期号):9-17

(Issue Date)

2015-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/E0040548>



外国書講読を通じて自ら考える： 公共交通を対象として

三 古 展 弘

1. はじめに

私は「外国書講読」の講義を担当するのは今回で10回目になります。本年度使う教科書は、イギリス・ウェストミンスター大学のPeter White教授が執筆した“Public Transport”という本です。初版は1976年に出版されていますが、本講義で使用するのは2008年に出版された第5版です。長い期間にわたって読み続けられてきた教科書です。私は2012年から2年間イギリスに滞在する機会があり、興味があってイギリスの大学のシラバスを見たことがあります。この教科書はイギリスの大学の公共交通を取り扱った講義でも採用されていることが分かりました。

この本のテーマは公共交通ということで、皆さんにも親しみやすいテーマだと思います。また、それほど事前知識を必要としないので、外国書講読の教材としても適切だと思います。そのようなわけで、私はこの教科書を使って講義をするのは4回目になります。ただし、著者がイギリスの大学に所属する研究者であることから、イギリスの事例が多く、皆さんにはなじみのないイギリス特有の事情も出てくると思います。できるだけ、皆さんに分かるように解説しながら読み進めていきたいと思っています。イギリスの事例を見ると、同じ公共交通でも日本とは異なる点に気づくと思います。教科書で出てきた事例について、日本ではどのようになっているかを調べることも面白いと思います。私からも参考となる情報を提供したいと思いますが、皆さんも是非調べてみてください。

2. 講義での課題

この講義では、できるだけ皆さんに交通に興味を持ってもらい、主体的に学習してもらうことを意図して、次のような課題を設けました。ここでは、その趣旨について説明したいと思います。

(1) 3ヶ月間の現地調査と報告

皆さんには後期の 10～12 月の間、交通施設を 1 つ選んで実際に現地へ行って調査をしてもらいます。このときに選ぶ施設は自由ですが、できるだけ何回も調査に訪れることができて（週に 1 回以上を目安）、興味のあるものが良いと思います。JR 六甲道駅、阪急六甲駅、市バス 36 系統、国道 43 号線、など自由に決めてください。ただし、他の人があまり選んでいない施設を選ぶと、最後の発表のときに違う事例がそろって良いと思います。発表するほうもオリジナリティを出しやすくなりますし、聞くほうもいろいろな施設の発表を聞くことができます。第 2 週目の講義のときに、1 つの施設を選んでもらいます。ただし、その後変更しても構いません。

ここで、受講生から次のような声があがることがあります。「どのようなことを調べたらよいか分からない」、「昨年の例を見せて欲しい」。しかし、私はこの質問にはできるだけ答えないようにしています。これは、何を調べるか考えること、自ら問いを立てること自体がこの課題の意図するところだからです。（ただし、「こういうことを調べてみたいと思いますが、それでいいですか」というような質問は歓迎します。これは、どのようなことを調べるか自ら考えているという意味で、上の質問とは全く違います。私からも何かコメントができて、よりよい現地調査になるかもしれません。）講義が始まって間もないうちは、まだイメージが湧かないかもしれませんが、講義を聞いているうちに、何らかのヒントが得られると思います。まずは、現地へ行って何か気づくことがないか、講義の中で興味のあることはないか、探してみてください。

実際、皆さんはほとんど毎日、交通行動を行っているわけですから、交通に全く関心がないということはないと思います。ここで、交通行動といっても難しく考える必要はありません。皆さんが自宅から大学に通うということ自体が1つの交通行動です。家から大学への毎日の通学のときに気になること、実家に帰省するときに気になること、そのようなことを考えてみてください。

この課題では、ウェブ等で得られる情報を収集して報告することは求めていません。例えば、駅の歴史がどうなっていて、というようなことはウィキペディアなどで調べれば簡単に分かりますが、それは現地に行かなくても分かることなので、それは報告の中心にはなりません。自らの足で稼いだ、現地へ行かなければ分からない、あなたの発表からしか分からない情報を伝えるようにしてください。

最終的には、パワーポイントなどを利用して、調査した内容をスライドにして発表してもらいます。発表時間は5分間です。スライドの分かりやすさも大切ですし、短い時間で報告するためには、発表の前に練習をしておくことも必要だと思います。毎年、他の人の発表を見て、「感心した」、「すごいと思った」、「自分でもこうすればよかった」といった感想が聞かれます。自分で調べること、そして他の人の発表を見ることの両方で楽しみながら勉強してもらえるとよいと思います。私にとっても新しい気づきがあって、毎年楽しみにしています。

(2) 交通調査に回答する

自らの1日の交通行動を記録するという課題を行ってもらいます。交通の分析をするには交通に関するデータが必要です。そのようなデータを収集する調査の1つにパーソントリップ調査があります。教科書の中でも、パーソントリップ調査に類似した調査から得られたデータを集計したものが報告されています。

パーソントリップ調査は、日本の3大都市圏では10年に1回、都市圏の世帯の約3%を抽出して、その世帯の構成員（5歳以上の全員）のある1日の交

通行動を記録してもらおうというものです。仮に大学生 A 君の交通行動が、「朝家から大学へ行って、夕方アルバイトに行き、夜スーパーで買い物をして帰ってきた」というものであったとしましょう。このとき、A 君は、家→大学、大学→アルバイト先、アルバイト先→スーパー、スーパー→自宅、という 4 回の移動（トリップといいます）をしていることになります。そして、この 4 回の移動について、出発時刻（何時何分）、到着時刻（何時何分）、出発地所在地（前の移動の到着地と同じ）、到着地所在地、利用した交通手段（徒歩、自転車、自動車、バス、鉄道など乗換えなどがあれば利用したものすべて）、移動の目的（通勤、通学、業務、自由、帰宅など）、同行者人数などを答えてもらいます。

このように皆さんの 1 日の行動を記録してもらうことで、自らの交通行動について認識することができます。ただ、これだけですと、自分の行動について記述するだけになってしまいますので、皆さんの行動を他の発表されている資料（インターネットのホームページ、教科書、その他の本など）と比較してもらいたいと思います。例えば、大学生 A 君は 4 回の移動をしていますが、これは世間一般と比較して多いのでしょうか、少ないのでしょうか？

(3) 交通に関連する図を作成する

交通に関する数値や図に親しんでもらうという目的で、交通に関連する図を作成してもらいます。図や表というのは読者の理解を助けるという意味でも有用なものですし、今後皆さんが発表などで資料を作成する際にも役に立つと思います。また、図や表を作成する過程で、作成している本人にとっても理解が深まるという意味もあると思います。

以下の 3 つの図は、教科書の中に出てくるものを一部改変して載せたものです。図 1 は、横軸に時刻、縦軸に距離（駅しか示していませんが、駅間隔が距離に比例しています）をとって列車の運行ダイヤを示しています。図 2 は、横軸に 1 時間刻みの時間帯、縦軸に各時間帯の運行本数を示しています。図 3 は、

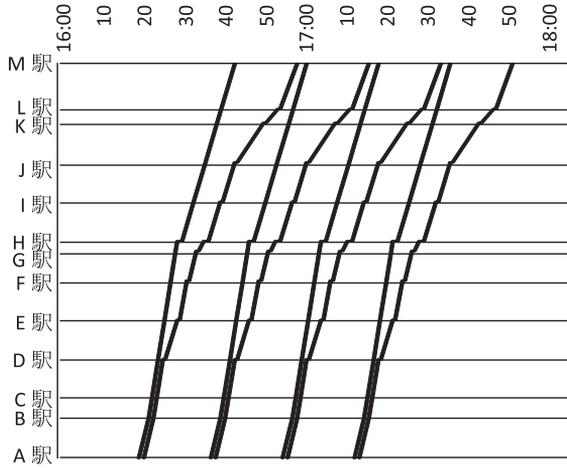


図1 列車の運行ダイヤ

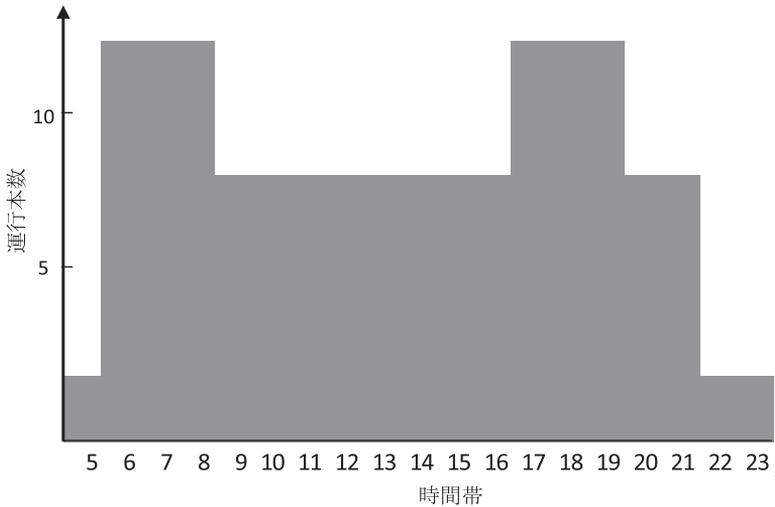


図2 各時間帯の運行本数

横軸に距離，縦軸に運賃をとったものです。

皆さんには，身近な路線や駅などを使って，図1~3の中から1つ以上を選んで作成してもらうということを課題にしています。ただし，ここでも要求が

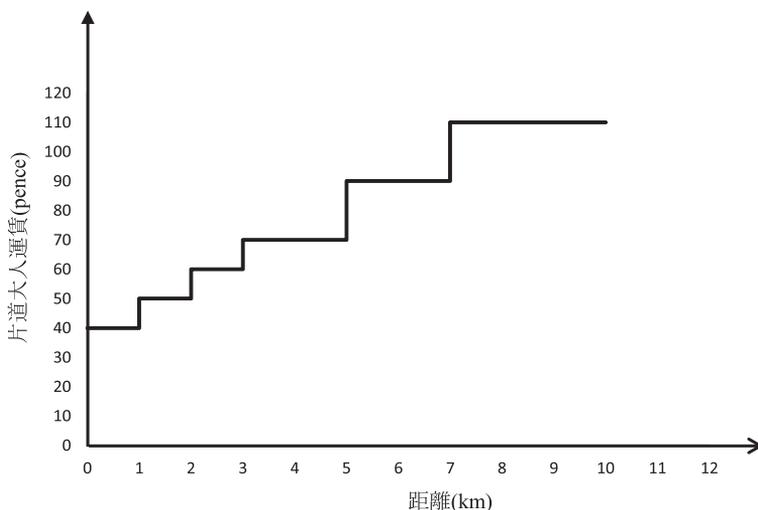


図3 距離と運賃の関係

あって、図1～3と全く同じ図を作成するのは不十分です。例えば、図2について、JR六甲道駅の平日の大阪方面について作成するだけではいけません。そこに何か工夫をして、図2にはない要素を追加する必要があります。

これについてもヒントは示しません、毎年面白いレポートが出てきます。是非、皆さんも新しい工夫をしてください。

3. 講義の設計について

皆さんは学期の終わりに講義の評価アンケートに回答していると思いますが、私は以前あまり評価が良くなかったことがあり、講義の改善のために本を何冊か読みました。その中に、講義の満足度の高さは、講義設計がしっかりしていることと非常に強い関係があるということが紹介されていました。

そこで、私は講義計画をしっかりして、何週目にはこの内容をする、というようなことを決めました。また、課題についても、課題を配布する日、回収す

る日、フィードバックをする日、というのを決めています。

また、自発的に勉強することを促す講義設計にすることを意識しました。そのため、講義の内容に加えてもう少し勉強したい学生のために、参考資料も示すことにしています。また、課題にはできるだけフィードバックをするようにしています。前節で示したプロジェクト報告については発表のときに直接コメントをしますし、交通調査と図の作成に関するレポート課題についても、あらかじめ決めたフィードバックの日いくつかのレポートを紹介することになっています。

今回の課題は、無から何かを作り出すというようなところもあると思います。今回の課題について当てはまるかは分かりませんが、私の美術の授業での経験が参考になるかもしれません。私は中学校の美術の授業で、何かの作品を作成するときに、どうすればよいのか分からずに困っていました。当然ですが美術の授業では自ら作品を生み出すことが目的ですから、こうなさい、というような指示はありません。何学期かが過ぎて作品を作成するのが何回目かになったときに、自由に発想すればよいということに気づきました。また、そのほうがより評価されるということに気づきました。私はこの発見の前後で大きく美術に対する意識が変わったように思います。このことが今回の課題に当てはまるかは人それぞれなのでよく分かりませんが、もしかしたら皆さんの参考になるかもしれないので書きました。ついでに言いますと、自由な発想をして何もなかったところから何かを作っていくというのは、大学で研究する場合についても当てはまるように思いますし、社会に出て仕事をする場合にも当てはまるのではないかと想像しています。

最後に、予習の意義について触れておきたいと思います。私は学生時代には語学の講義の予習はしていましたが、それ以外の講義の予習はあまりしていませんでした。当時はあまりしっかりしたシラバスもなく、講義の当日にならないとどのような内容を学習するのがあまり分かっていませんでした。

ところが、最近、今さらながら予習をすることの重要性を再認識しました。

私はイギリスへ行ったときにリーズ大学の講義を聴講させていただきました。そこでは非常に詳細なシラバスがありました。私にとっては今まであまり勉強したことのないテーマに関する講義だったので、シラバスに沿って予習をして講義に臨みました（実ははじめはあまり予習をしていなかったのですが）。そうすると、予習をすることで理解が大きく深まることに気づきました。また、講義中に示された論文や資料を読むことで理解が深まりました。予習をするかどうかは皆さんの自由で、強制することはできませんが、予習をするとそれなりに得るものがあるのではないかと思います。是非、皆さんも予習をして講義に臨んでください。そして、できるだけ参考として示した資料にも当たるようにしてください。

4. おわりに

この講義は、学部の交通論の講義にも関係しています。交通論の講義に興味を持ってこの講義を受講してくれればうれしく思いますし、その逆もあればうれしく思います。交通についてもっと深く勉強したい人は、交通系のゼミに入ることや大学院への進学も考えてみてください。神戸大学の経営学部・経営学研究科は交通分野の教員が充実しています。また、交通とは違う分野を勉強したい人にも、この講義で取り扱ったことが役に立つことを願っています。

また、講義に皆さんが積極的に参加してくれるとうれしく思います。私も教員になる前は、当然のことながら学生でした。そのときにはあまり気づかなくて、教える側になって気づいたことですが、講義をしているときに学生の皆さんからの反応があるとうれしいですし、講義もとても進めやすくなります。是非、自分が講義を作っていくというくらいの気持ちで参加してくれることを期待しています。

最後に、外国書講読を使って英語の勉強をするという観点から書いたものに三古（2006）がありますので、興味のある人はそちらも読んでください。

参考文献

Peter White, 2008. *Public Transport: Its Planning, Management and Operation* (Fifth edition), Routledge.

三古展弘：「外国書講読に期待できそうなこと」、『国民経済雑誌別冊 経済学・経営学学習のために』平成 18 年度前期号（神戸大学経済経営学会，2006），pp. 41-48。